

HisayamaLIFE Newsletter

公益社団法人 久山生活習慣病研究所

第11号

2016年5月20日発行

ごあいさつ

当法人は平成17年4月の発足から11年、平成25年4月に公益社団法人として福岡県の認定を受けてから3年がたちました。この間、法人事業は順調に発展し、九州大学大学院医学研究院の久山町研究および臨床研究の推進と学内外の他研究機関および民間企業との連携構築に貢献して参りました。これも関係各位のご支援の賜と心より厚く御礼申し上げます。

わが国は超高齢社会を迎え、動脈硬化性疾患、悪性腫瘍、認知症など生活習慣病を有する患者さんが大幅に増加し、社会的負担が増大しています。法人の目的はまさにこれら疾患の予防・管理を目指すものであり、これからもその社会的使命は大きくなると予想されます。私は平成28年3月をもって九州大学を定年退職いたしました。代表理事として当法人のさらなる発展を図り、その成果を国民の健康福祉の向上に役立てるべく今まで以上に努力して参りたいと存じます。今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表理事 清原 裕

トピックス

■ 久山町の健康づくりの取り組みが厚生労働省の表彰を受けました

【受賞名】第4回 健康寿命をのばそう!アワード(生活習慣病予防分野) 厚生労働省健康局優良賞(自治体部門)

【受賞内容】将来の糖尿病発症を予測する「健康みらい予報」を活用した糖尿病予防対策～福岡県久山町の官学連携のとりくみ～



表彰を受ける健康福祉課長 物袋由美子保健師



久山町、九州大学久山町研究室、久山生活習慣病研究所が連携して生活習慣病予防等の取り組みを実施しています

「健康寿命をのばそう!アワード」とは、厚生労働省が主催する表彰制度で、生活習慣病の予防の啓発や介護予防・高齢者生活支援に関して優れた取り組みを行っている企業・団体・自治体を対象としています。平成27年11月16日、丸ビルホール(東京都)にて表彰式が開催されました。

今回久山町は、平成26年度から実施している将来の糖尿病などの発症を予測する「健康みらい予報」を活用した糖尿病予防対策の取り組みが評価され、応募総数125件(自治体部門39件)の中から同賞を受賞しました。

九州大学アクションプラン2015の主要施策の具体的な取り組みのひとつとして、「久山町研究を中心としたコホート研究の推進」が選ばれました

九州大学は、2011年の創立百周年を機に新たな百年に向けて、すべての分野において世界のトップ百大学に躍進することを目指して「躍進百大」というスローガンを掲げました。「自律的に改革を続け、教育の質を国際的に保証するとともに、常に未来の課題に挑戦する活力に満ちた最高水準の研究・教育拠点となる」をその基本理念としています。この基本理念を実現するために今後6年間のアクションプランを策定しました。



その主要施策のひとつである「先端医療による地域と国際社会への貢献」の具体的な取り組みの中に、「久山町研究を中心としたコホート研究の推進」が選ばれました。

3) 基礎研究の臨床への展開と学術研究の推進

世界をリードする革新的医療技術や薬剤などの開発・実用化を目指した基礎研究から臨床研究までの推進体制を強化し、良質な観察研究・トランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）・臨床研究を推進することで、先進的医療技術の開発へつなげていきます。

- 世界的疫学研究である久山町研究を中心としたコホート研究の推進
- シース開発戦略・知的財産戦略の下での実用化を目指した基礎研究・橋渡し研究・臨床研究の推進（ARO⁽¹⁾）
- 医療系の学内共同教育研究センターの再編による医療技術開発拠点の機能強化

平成27(2015)年度の活動

久山町研究

健診事業

平成27年度の生活習慣病予防健診は、同年6月26日から8月29日までの計25日間久山町ヘルスC&Cセンターで行われ、40歳以上の受診者数は2,526名であった。健診では、問診、身体計測、血圧測定、内科診察、採血、75g経口糖負荷試験、検尿、心電図、骨密度検査、呼吸機能検査、眼科検診、歯科検診を実施した。

牛乳・乳製品の摂取がメタボリックシンドローム等に与える影響に関する疫学研究

平成20年度より株式会社 明治および中村学園大学との共同研究において、牛乳・乳製品摂取がメタボリックシンドローム等の生活習慣病に与える影響を検討してきた。今年度は、昭和63年に行われた久山町の住民健診の受診者を対象とした追跡調査において、乳タンパクが心血管病・認知症発症、総死亡・死因別死亡に与える影響を検討した。解析は継続中である。さらに、平成12年の健診受診者の乳タンパク摂取量のデータを整備した。

生活習慣病の発症予測システム「健康みらい予報」に関する研究

久山町における追跡調査の成績より作成した心血管病および糖尿病発症の予測モデルを用いて、株式会社野村総合研究所とともにこれら疾患の発症予測システム「健康みらい予報」を開発・商品化している。ユーザーより発生する「健康みらい予報」に関する医学的・統計学的な問い合わせの対応業務を前年度に引き続き、野村総合研究所から受託した。

■ 久山町研究における血中脂肪酸と生活習慣病との関係に関する共同研究

平成23年3月より、持田製薬株式会社および九州大学との共同研究において、久山町の地域住民における血中脂肪酸と生活習慣病との関連について検討している。今年度は、平成14年に設定した久山町追跡集団で明らかにした血中エイコサペンタエン酸(EPA)／アラキドン酸(AA)比と癌死亡リスクに関するデータを論文化した。

■ 久山町研究における高尿酸血症に関する疫学調査研究

平成26年1月に、帝人ファーマ株式会社からの受託研究として、血液尿酸レベルが生活習慣病に与える影響に関する研究を開始した。今年度は、久山町の追跡調査で明らかにした血清尿酸レベルと慢性腎臓病(CKD)発症の関係に関するデータを論文化し、さらに血清尿酸レベルと心血管病および糖尿病との関係についても検討した。

(文責 清原裕)



久山町研究室スタッフ(九州大学)



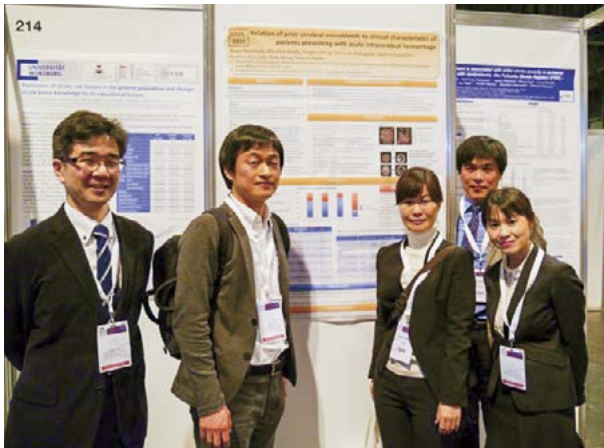
久山町研究室スタッフ(久山町ヘルスC&Cセンター)

福岡脳卒中データベース研究 (Fukuoka Stroke Registry: FSR)

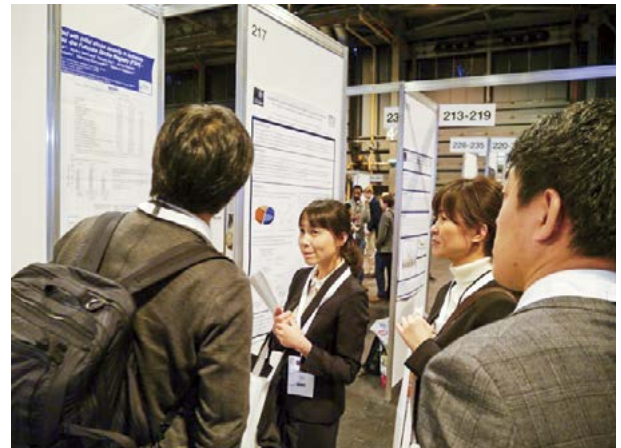
■ 多施設共通データベースを用いた脳卒中に関する臨床疫学研究

平成28年1月末までに同意を取得した患者総数は11,689名、データ入力を完了した患者総数は11,295名となった。同意取得率は89%、追跡率は94%と依然として高水準を維持している。今年度はイベント評価委員会において確定された長期予後情報についてデータ整備を行った。また、今年度も登録患者の臨床データに対し疫学的手法を用いて解析を行い、得られた結果を以下の通り発表した。

学会発表は、国内学会としては第40回日本脳卒中学会総会（広島）で8題、第56回日本神経学会学術集会（新潟）で4題、第57回日本老年医学会学術集会（横浜）、第37回日本止血血栓学会学術集会（甲府）、第34回日本認知症学会学術集会（青森）で各1題の発表を行った。国際学会としてはInternational Stroke Conference 2015（米国・ナッシュビル）で1題、European Stroke Organization Conference（英国・グラスゴー）で2題、Asian Pacific Stroke Conference（マレーシア・クアラルンプール）で1題の演題を発表した。これらの発表内容は学術誌に投稿あるいは投稿準備中である。平成27年にはStroke誌に2編の論文が掲載された。



ESOC2015 (欧州脳卒中学会、グラスゴー)
左から脇坂義信先生、古賀政利先生、中村麻子先生、松尾龍先生、石川ひろみ先生



ESOC2015 (欧州脳卒中学会、グラスゴー)
プレゼンテーション後に質疑応答中の石川先生

■ 脳梗塞におけるバイオマーカー探索、解析 (REBIOS、REBIOS 2) / 再解析 (R-REBIOS) に関する共同研究

■ 脳梗塞におけるバイオマーカーの検証に関する共同研究 (VREBIOS)

脳梗塞患者の登録は終了し、バイオマーカーの変動結果に対して機械学習手法を用いて解析を行った。システムバイオロジーの観点から因果推論を行い、脳梗塞に伴い変動するタンパク質全体の解明を試みている。

■ 医療プロセスが脳卒中患者の予後に及ぼす影響に関する研究

FSR登録患者に対する診療行為情報の電子的収集について、FSRに参加する全ての施設において倫理審査が終了し承認が得られた。レセプト情報から脳卒中に関連する診療行為情報を抽出するためのマスタを作成するとともに、FSRデータに統合するためのプログラムを作成した。さらに、リレーショナルデータベースSQLを用いて、臨床情報とレセプト情報を統合したデータベースを構築した。実際に薬剤に関してDPC・レセプト情報から電子的に抽出した情報とFSRの臨床情報とを照合し、レセプト情報を利用したデータ統合システムの検証を行った。

■ 越境大気汚染に含まれる粒子成分が脳卒中発症に及ぼす影響に関する研究

国立環境研究所と共同で越境大気汚染物質が脳梗塞発症に及ぼす影響について解析を行った。今年度はPM2.5などの浮遊微小粒子状物質に関する環境データと、脳梗塞患者における暴露から発症までの時間についてデータベース化した。両者の関連性についてケースクロスオーバー法を用いて解析を行い、得られた結果は学術誌に投稿予定である。

■ 薬剤感受性遺伝子の遺伝子多型と心血管イベント発症の関連に関する研究

第一三共ヘルスケア株式会社と共同で、薬剤感受性遺伝子における遺伝子多型が脳卒中再発に及ぼす影響についての研究を行った。8,907人の脳梗塞患者における候補遺伝子の遺伝子型と長期の心血管イベント発症との関連性について解析を終了した。得られた結果は、学会発表および学術誌への投稿を予定している。

■ 軽症脳梗塞および高リスク一過性脳虚血発作患者の疾病負荷および心血管アウトカムに関する研究

アストラゼネカ株式会社と共同で、軽症脳梗塞および高リスク一過性脳虚血発作患者の疾病負荷および心血管アウトカムに関する研究を開始した。対象患者5,450名の3カ月および1年後の脳卒中再発、心血管イベント、死亡との関連性について解析を行った。

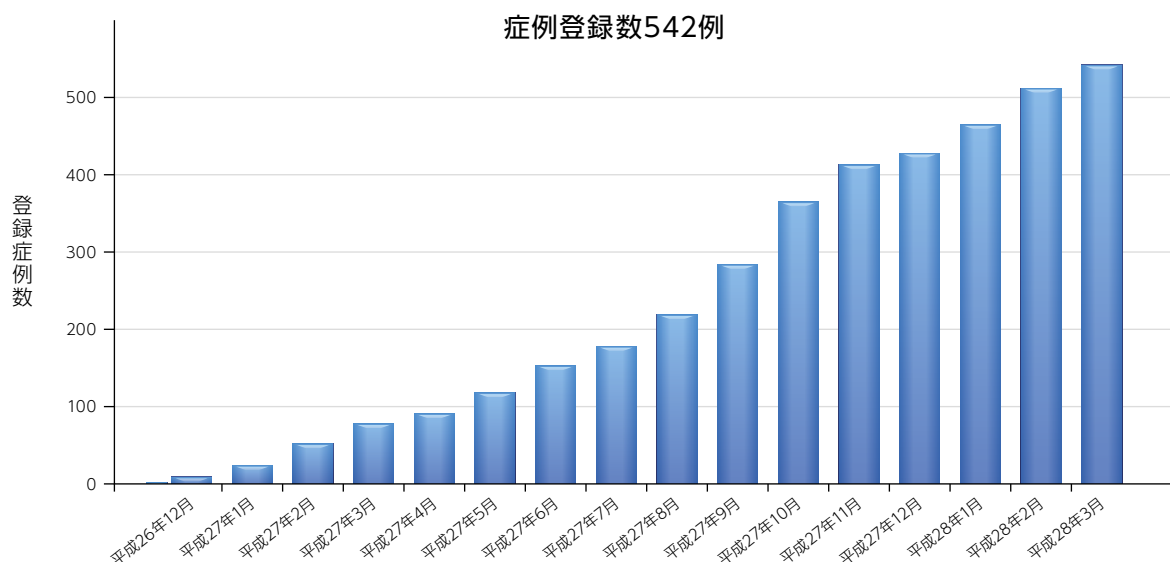
(文責 鴨打正浩)

福岡高血圧コホート研究 (Fukuoka Hypertension Cohort : FHC)

福岡高血圧コホート研究:Fukuoka Hypertension Cohort (FHC) Studyは、多施設共通データベースを用いた高血圧患者の病態解明に関する疫学研究である。九州大学病院と病態機能内科学高血圧・血管研究室の関連施設を中心とした参加施設に通院中の高血圧患者を対象としてコホート集団を形成し、登録時と5年後に通信機能付き家庭血圧計を用いた家庭血圧調査を行うとともに、背景因子の調査、臨床検査、生活習慣に関するアンケート調査、Mini Mental State Examination (MMSE) による認知機能検査 (65歳以上) を定期的に行い、5年間追跡する予定である。

平成26年12月より九州大学病院、製鉄記念八幡病院で患者登録を開始し、問題点を修正しながら研究計画書の変更を行い、平成27年度は、5月より九州医療センター・九州中央病院・かわさき内科循環器科クリニック・大牟田病院・門司掖済会病院と登録施設を順次広げた。平成28年3月31日時点で542名を登録した。1年が経過した症例に関しては、血圧や血液・尿検査などの臨床データを収集した。

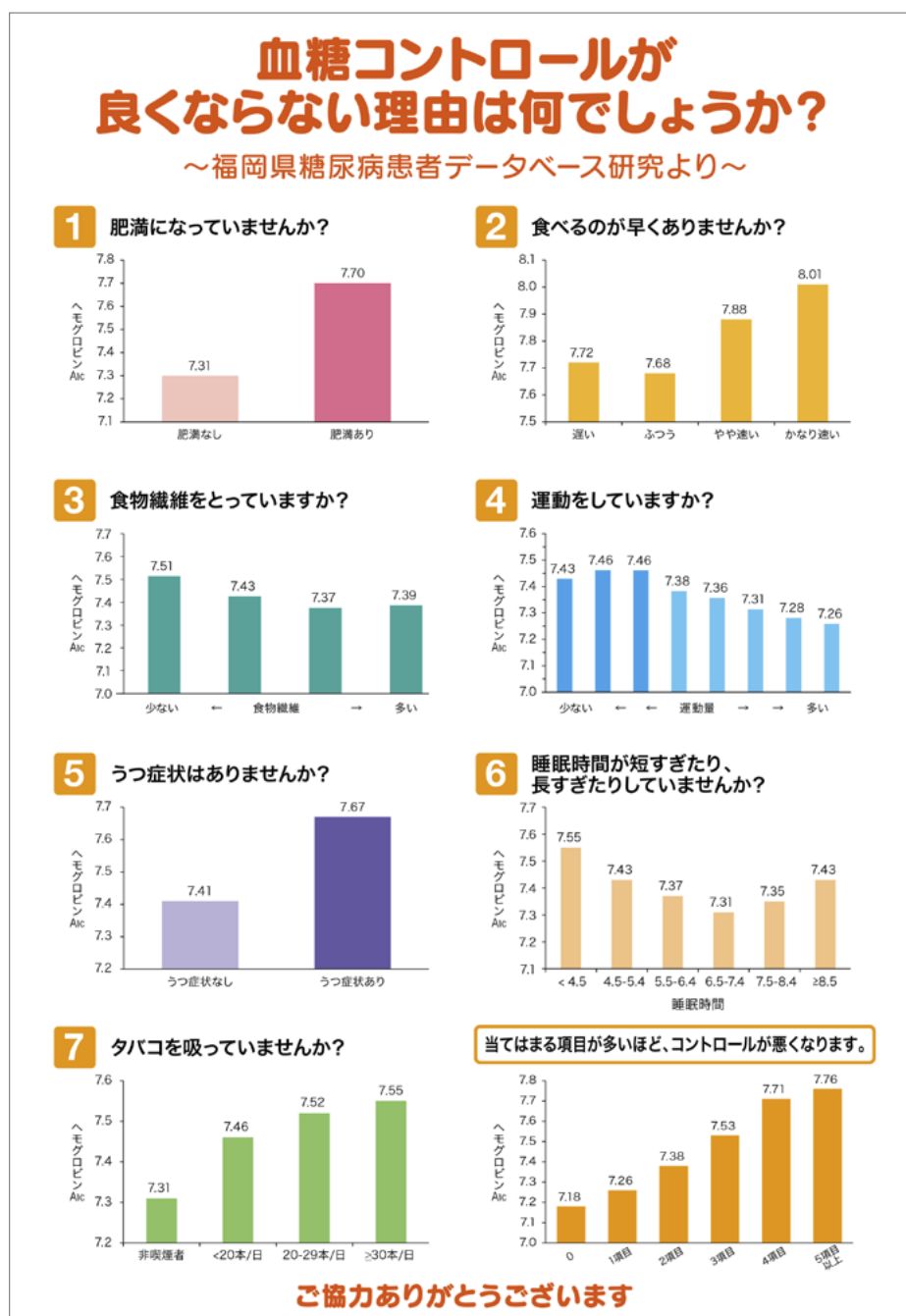
(文責 大坪俊夫)



福岡県糖尿病患者データベース研究(Fukuoka Diabetes Registry : FDR)

本研究は糖尿病患者の治療法の改善を目指した前向きゲノムコホート研究である。2015年度は第1期追跡調査の最終年度となった。平成20年より2年半かけて九州大学第二内科糖尿病研究室の関連施設に通院中の5,131人を登録した。5年間の追跡調査の予定で、本年までに全施設の追跡調査が終了した。追跡率は97%以上となり、死因、脳血管障害、心臓病、閉塞性動脈硬化症、透析導入、網膜症、足潰瘍、がん、骨折、重症低血糖のイベント判定は終了し、残った課題は自宅などでの死因不明者の調査と正常耐糖能集団を含む久山町住民(平成19年度健診受診者)とのデータ統合を行うことである。本研究では7人の九州大学の大学院生がFDRを研究テーマとして取り組み、学位論文を含む10編の論文が発表できた。また、3種目の文部科学省科研費が配分され、うち基盤研究(A)は本年が最終年度となるため成果公表のホームページを開設した(<http://www.diabetes.med.kyushu-u.ac.jp/fdr/>)。さらに、下記のような生活習慣にかかわるポスターを作成し、生活習慣の重要性について啓発を行った。

(文責 岩瀬正典)



福岡腎臓病データベース研究 (Fukuoka Kidney Disease Registry : FKR)

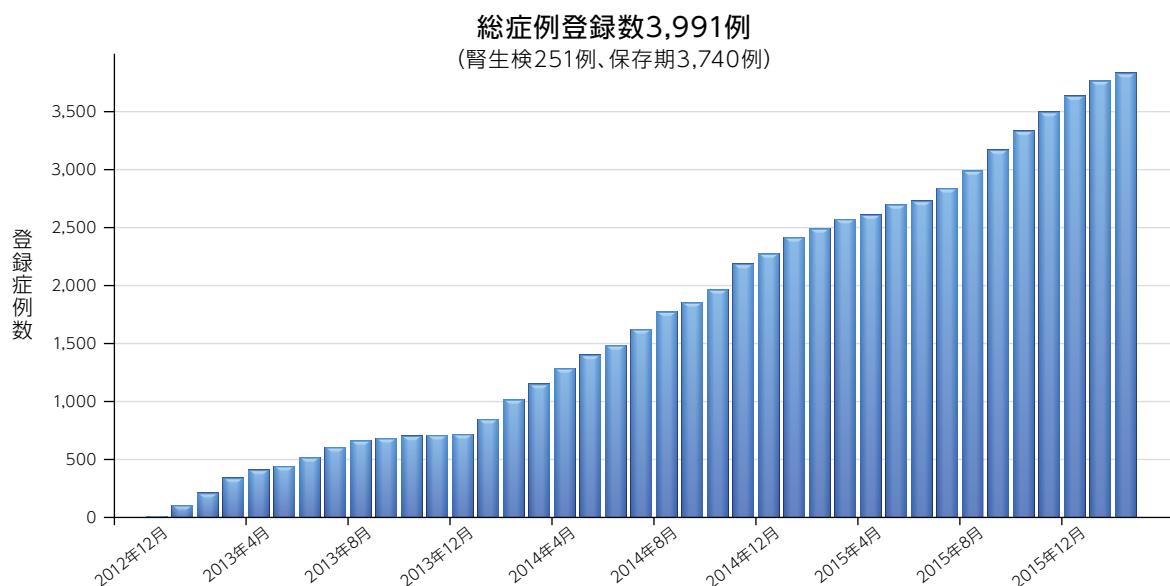
■ 腎臓病に関する臨床疫学コホート研究

(1) 新規腎生検症例登録による腎生検コホート (FRBR)

平成28年3月末時点で総数251名の新規腎生検症例を前向きデータベースに登録し、臨床データの収集ならびに腎組織、血液、尿、DNAなどの採取・保存を行った。本年度より、腸内細菌叢と腎疾患の関連に注目し、一部の施設において便試料の収集も開始した。

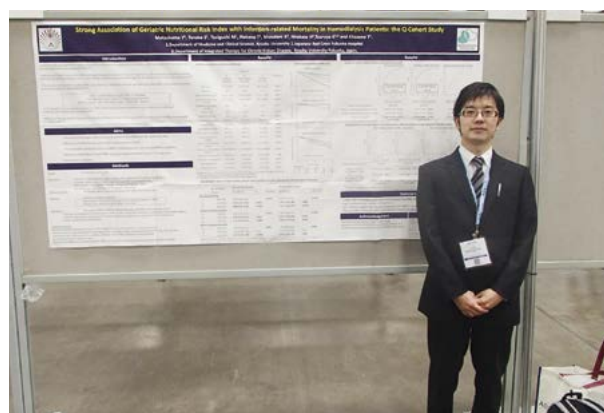
(2) 保存期CKD症例登録による前向きコホート (保存期FKR)

今年度は新たに1施設 (製鉄八幡記念病院) でIRBの承認を受け、研究参加施設数は12施設に拡大した。既に、9施設において症例登録を完了し、福岡赤十字病院と小倉記念病院の2施設において前年度より引き続き症例登録を進めている。平成28年3月末現在の本データベースの同意取得患者総数は、3,740名となった。



(3) 既存腎生検症例による後ろ向きコホート

前年度に引き続き、1979年～2010年の間に生検を施行されたIgA腎症1,500名の後方視的な臨床疫学的解析を行った。得られた知見に関して、第58回日本腎臓学会学術総会 (名古屋) で2題、第48回米国腎臓学会 (サンディエゴ) で2演題を発表した。これらの発表内容のうち、Clinical and Experimental Nephrology 誌に1編が採択、掲載された。 (文責 鶴屋和彦)



ASN2015 (米国腎臓学会、サンディエゴ) 松隈祐太先生

役 員 (H28年5月1日 現在)

会 長	尾前 照雄	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 名誉総長
代 表 理 事	清原 裕	久山町ヘルスC&Cセンター長、九州大学 名誉教授
副代表理事	久芳 菊司	久山町町長
副代表理事	北園 孝成	九州大学大学院 医学研究院 病態機能内科学 教授 (常務理事を兼任)
理 事	飯田 三雄	公立学校共済組合 九州中央病院長
	石橋 達朗	九州大学 病院長
	井手 義雄	社会医療法人 雪の聖母会 理事長
	岩城 徹	九州大学大学院 医学研究院 神経病理学 教授
	上野 道雄	独立行政法人 国立病院機構福岡東医療センター 院長
	小田 義直	九州大学大学院 医学研究院 形態機能病理学 教授
	角森 輝美	久山町ヘルスC&Cセンター 副センター長・総括保健師
	梶山 千里	公立大学法人福岡女子大学 理事長・学長
	久保 千春	九州大学 総長
	中野 昌弘	独立行政法人 国立病院機構福岡東医療センター 名誉院長
	貫 正義	九州電力株式会社 代表取締役会長
	松田 峻一良	公益社団法人 福岡県医師会 会長
監 事	木下 康一	久山町議会 議長
	中西 裕二	中西裕二公認会計士事務所 所長

五十音順・敬称略

ご寄付をいただきありがとうございます

平成27年度は、総額 5,780,000円の寄付を頂戴しました。この場をお借りして、改めて感謝の意を表します。

佐藤 八郎 様、松井 和弘 様、小串 俊雄 様
 和田美也内科クリニック 和田 美也 様
 糖尿病ケアクリニック六本松 院長 大久保 賢 様
 医療法人敬天会東和病院 理事長 益川 理美子 様
 医療法人松井医仁会大島眼科病院 院長 松井 孝明 様
 医療法人鈴木内科医院 院長 野見山 理久 様
 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院 様
 武田薬品工業株式会社 様 他 匿名 8名様

当法人は、九州大学病態機能内科学ならびに環境医学を中心とした疫学研究と臨床研究の成果を活用し、生活習慣病の予防と治療法の開発を通じて国民の健康福祉の推進に貢献することを目的としています。事業活動にご理解とご賛同をいただき、是非ご寄付をお寄せくださいますよう心より願います。

なお、当法人への寄付金は、特定公益増進法人への寄付金として、所得税・法人税の税制上の優遇措置が適用されます。詳しくはホームページ www.hisayamalife.or.jpをご覧ください。